

第1回 GI-net レクチャーシリーズを開催しました

三機関(長岡技術科学大学、豊橋技術科学大学、国立高等専門学校機構)連携事業の一環である GI-net レクチャーシリーズ講演会を、2014年6月18日(水)午後1時より、本学のマルチメディアシステムセンターで開催しました。

渡利広司先生(産業技術総合研究所イノベーション推進本部 上席イノベーションコーディネータ)をお迎えし、「シナリオ作りの重要性～セラミックス研究と大型連携コンソーシアムを例に～」のタイトルでご講演いただきました。

ご講演は、自己紹介、セラミックス研究を通じた企業への技術移転、複数企業との大型コンソーシアム事業、学生へのメッセージの4部構成でした。講演内容を次に要約します。

①自己紹介 出身の松江高専生産機械工学科から長岡技術科学大学3年に編入した。学部で受けたセラミックスの超塑性現象に関する講義に感銘を受けた。それがきっかけとなり大学院ではセラミックスの研究に進んだ。

②技術移転例 名古屋工業技術研究所で実施した、セラミックス製造で利用するバインダーの開発研究を例示した。技術移転にはコスト低減というコンセプトが必要で、製造工程で発生する有機バインダーガスの無害化と、有機バインダーに代わる低環境負荷の無機バインダーを開発し、技術移転に成功した。

③大型コンソーシアム事業例 産総研が総力を上げて企業と連携した例として、「高信頼性太陽電池モジュール開発・評価コンソーシアム」事業がある。太陽電池モジュールの信頼性向上と長寿命化を目指し、化学メーカーと部材メーカー31社とのオールジャパン体制で共同研究を実施した。このプロジェクトにより太陽電池の開発分野における国際競争力を強化した。

④学生へのメッセージ 給料を得る意味と、社会的なニーズに即した産業技術を提供するサービス精神の大切さを強調した。

質疑応答では「イノベーション推進のコツは何か」という問い合わせに対し、「相手の意見や技術力を尊重することだ」とお答えいただきました。

本講演は遠隔講義・会議システムである GI-net を活用し、レクチャーシリーズとして初めて三機関へ配信されました。

